

45

文  
部  
省  
刊  
行

小  
學  
連  
語  
圖  
讀  
本

全



A 1

171



文部省刊行

小學  
連語圖讀本

明治十六年

十月飛刊

青藜閣發兌



第

神人 天地 萬物 主宰 善道 信義 祖父

祖母 父母 伯父 叔父 伯母 叔母

親子 兄弟 姊妹 親愛 友愛

神の天地の主宰にして人の萬物の靈なり。

善道を以て身を脩め信義を以て人に交る。

二頁欠

二

○読み書きの外、算術學ぶべし

○遊歩を爲す、運動の爲し

運動を爲す、氣を散り、體を養

ふ。爲す。○運動を爲す。又書物を

読み手習し、算術を學ぶ」



其處<sup>ソコ</sup> 此處<sup>ココ</sup> 何處<sup>トコ</sup> 何時<sup>イツ</sup> 往<sup>イ</sup> 歸<sup>ル</sup> 彼<sup>カ</sup> の

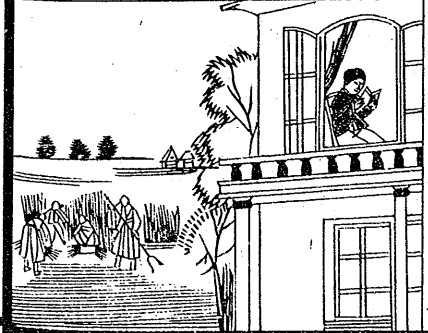
此<sup>コ</sup> の 彼 是 近<sup>キ</sup> 遠<sup>キ</sup> 町 里 朋 友 親 類

第

學 問 智 識 家 業 富

君<sup>キミ</sup> の 其處<sup>ソコ</sup> に 居<sup>ル</sup> て 書 物 を 讀<sup>ム</sup> め 予<sup>ヨ</sup>

此處<sup>ココ</sup> に 在<sup>リ</sup> て 手 習<sup>テ</sup> せ。 彼<sup>カ</sup> の 小 兒<sup>コドモ</sup> は



何處<sup>トコ</sup> へ 往<sup>キ</sup> まし や 此 女 子<sup>メカド</sup> の 何 時<sup>イツ</sup> 歸<sup>ル</sup> り ぞ。 彼<sup>カ</sup> 近<sup>キ</sup> 處<sup>トコロ</sup> の

朋 友<sup>トモ</sup> の 宅<sup>ウチ</sup> へ 往<sup>キ</sup> まし 是<sup>ココ</sup> へ 遠<sup>キ</sup> 處<sup>トコロ</sup> の 親 類<sup>オヤジナ</sup> の 家<sup>ウチ</sup> より 歸<sup>ル</sup> る。

三 近<sup>キ</sup> 處<sup>トコロ</sup> へ 二 三 町<sup>チヨウ</sup> に 近<sup>キ</sup> 遠<sup>キ</sup> 處<sup>トコロ</sup> へ 五 六 里<sup>リ</sup> へ 餘<sup>リ</sup> まり。

彼<sup>カ</sup> の 朋 友<sup>トモ</sup> へ 常<sup>トキトキ</sup> に 學 問<sup>ガク</sup> を 好<sup>ム</sup> み 是<sup>ココ</sup> の 親 類<sup>オヤジナ</sup> 能<sup>ク</sup> 家 業<sup>カゲ</sup> を 勵<sup>ム</sup> め

○ 學 問<sup>ガク</sup> を 好<sup>ム</sup> め 智 識<sup>チシキ</sup> を 増<sup>ユ</sup> 家 業<sup>カゲ</sup> を 勵<sup>ム</sup> め 富<sup>トク</sup> を 致<sup>ス</sup>

第

雷林叢花開蟲鳴

地球日月晝夜今年牽春夏秋

冬東西南北風雨霜雪寒暑

地球の日を周りて轉し月は地球に隨ひて環る○

日のある間を晝といひ日の隠れて後を夜といふ○

朝日の光を東とし夕日の方を西とし○去年の秋は

冷ましと霜早く今年の春は暖ましと雨多し○春の

四

日は林に花開き秋の夕は叢花蟲鳴○夏の南風多し

冬の北風多し○夏の暑しとをりて雷鳴り冬寒し

と多し雪降る○暑き時は草木茂り寒き時は泉水凍る

穀類 魚類 獸肉 鳥肉 野菜 菓物 水 乳汁  
酒 烟草 養生 健康 勉強

第

日本の人、常に穀類魚類を食し、西洋の人、常に

獸肉鳥肉を食す。○野菜、煮たる

を食ふ。○菓物、熟せざるを食ふ

べからず。○水と乳汁、健康をたすけ

酒と烟草、養生に害あり。○勉強、

五 健康より生り。○健康、養生より

来る。○養生の人、食物と飲物を

えらひ、勉強の者、朝寝と晝寝を戒む



衣服 木綿 麻 絹 毛織 單帷子 袷綿入  
襦袢 羽織 帽 袴 長靴 足駄 草履 履

第 衣服の料ハ 木綿あり又 麻絹毛

織あり○暑き時ハ 薄き衣服を著

寒き時ハ 厚き衣服を著る○薄き



ハ 單帷子にて 厚きハ 袷綿入なり○ 袷ハ 合せハ

るもの 綿入ハ 綿を入れたるなり○ 肌貼るハ 襦袢

六 小して 表ハ 服を著るハ 羽織なり○ 帽をかぶり

袴を著る○ 雨の時ハ 足駄をはき 又 長靴を

たく 晴の日ハ 草履を用る 又 履をたく



第

大工左官家柱壁屋根下地軒中塗上塗

棚押入疊建具木瓦石机書架墨硯

筆紙和漢西洋庭池春秋景色朝夕眺望

大工の家を造り左官の壁を塗る○家ハ柱をたて

後小屋根をき壁の下地を作りて後に土をぬる○屋根

より軒をつけ中途より上塗をなす○棚押入をつひ疊建具

を入る○我邦の家ハ木にて作り西洋の家ハ瓦石を疊む

七

○前小机を居ゑ後小書架を置く○机ハ墨硯筆紙を

載せ書架ハ和漢西洋の書を積めり○庭にあまたの花を栽ゑ

池ハ多くの魚を畜ふ○春秋の景色もあり朝夕の眺望もよ

第

有用珍賤弄棄

起臥饑飽賢愚富貧老幼教問耻

覺藝誨厭急緩走步躓疲無益

朝ハ五時ハ起キ夜ハ十時ハ臥ス○働ク時ハ勞ヲ厭ム

食ム時ハ飽クを求メ○賢キ人ハ事ヲ習ヒ

愚ナル人ハ物ヲ教ム○知ル事ヲ知ル

人ハ問フを恥シ覺ス藝ヲ覺ス

急シ者ハ誨ヲを厭ム○急シ走ルを喜ム

遅シ者ハ躓クとあり緩シ者ハ遅シ者ハ疲レ少シ○

無益ノ物ハ珍シと雖弄ズが不有用ノ品ハ賤シと雖棄ズが不



八

前後左右勉情難易早遅破堅固  
長短強弱優劣剛柔曲折撓逆

第<sup>二</sup>づての事前のみそび後<sup>二</sup>必<sup>一</sup>れおそななり左をのみ

あぶれ右<sup>二</sup>必<sup>一</sup>ひまくなる○勉むるとま<sup>一</sup>かなき事も成り易く  
と<sup>一</sup>の勉めぬこと○勉むるとま<sup>一</sup>かなき事も成り易く

情<sup>二</sup>時<sup>一</sup>の易きことも成り難○早<sup>一</sup>く成るものに破れぬきと  
遅<sup>一</sup>く成るものに堅固なり○長きにほれが反りて短き小  
劣る事あり弱きを守れが遂<sup>一</sup>に強き小優るときあり

九

○剛きもの折ることわり柔なるものに曲ることあり撓ま  
ず折まざるに剛の徳曲らず逆らざるに柔の徳なり

秤目ハ十毛を一釐といひ○十釐を一分といひ○十分を一匁といひ○千匁を一貫目といふなり

第尺の名ハ十毛を一釐といひ○十釐を一分といひ○十分を一寸といひ○十寸を一尺といひ○十尺を一丈といふなり

升目ハ十才を一勺といひ○十勺を一合といひ○十合を一升といひ○十升を一斗といひ○十斗を一斛といふ

九 地割ハ六尺四方を一坪といひ又一步といふ○三十歩を一畝といひ○十畝を一段といひ○十段を一町といふ  
路程ハ六十間を一町といひ○三十六町を一里といふ

14110-3,9

明治十六年十月八日 翻刻御届

定例五條

東京府平民

翻刻人

北澤伊八

淺草區茅町貳丁目五番地

發賣所

同 支店

埼玉縣下浦和宿仲町

葛西音彌

青森縣下青森米町

同